

令和5年度 第5回大阪府建設事業評価審議会都市整備部会議事概要

日 時 令和5年12月25日(月) 13:30~15:00

場 所 ウェブ会議により実施

出席委員 内田部会長・織田澤委員・北野委員・兒山委員・前田委員・横山委員(6名)

議 題 (1) 府民意見等の募集結果について
(2) 意見具申(案)について
(3) その他

【議事概要】(◆部会長、事務局等の説明等、○委員の発言、⇒部局等の応答)

(1) 府民意見等の募集結果について

◆ [事務局]

資料1、2に基づき説明。

○横山委員：府民意見が0件なのは、告知の仕方が足りないのではないか。

◆ [部会長]

事務局としてどう受け止めているか。

◆ [事務局]

府民意見については、大阪府HPの報道提供のページを活用している。事務局で確認したところ、府民意見募集ページの閲覧数は、今回は約450であり、同月の報道提供の各ページにおける平均閲覧数は180であることを踏まえると、平均以上の方にはご覧いただいていると考えている。ただ、今後どういった広報の仕方をするのかについては検討が必要と考えている。

○横山委員：例えば地元への周知を実施するなど、ちゃんと伝えることは大事であると思う。

◆ [部会長]

感想にはなるが、後出しの情報が一番揉める原因と考える。そのため、適時適切にできるだけ早いタイミングで住民にお伝えすることが、信頼を確保して事業を進めていく上での第一歩と考える。今後行政に対する信頼感を獲得していかないとますます事業を推進していくことが難しくなるので、何かしらの検討が必要と考える。

今後、親委員会でも議論したいと思う。

(2) 意見具申(案)について

◆ [部会長]

それでは、これまでの審議を踏まえて、意見具申の取りまとめを行う。事務局より意見具申(案)の説明をお願いする。

◆ [事務局]

資料3に基づき説明。

◆ [部会長]

個別審議のまとめの結果より、付帯意見をつけることについては、都市計画道路八尾富田林線（八尾藤井寺工区）街路事業のみであったがいかがか。

- 横山委員：道路や公園の事業説明の中で、府の森を切ることに対する統一的な考え方がないように思える。蜻蛉池公園の事業の際には、森が資源だというまとめ方である一方、道路計画では森を切り開いて道路を作るとあり、必要性について違和感を感じる。

◆ [部会長]

横山委員ご指摘の箇所は、一般府道大野天野線の市街化されているところから南の方へ道路を通す件かと推察するが、事業着手するには当該工区のみが事業対象として説明をされることと、都市計画道路として1つの事業ではあるので事業計画全体として着手するのか議論することは別と理解している。工区ごとの事業説明である以上、工区外について議論することは領分外と思う。

- 横山委員：審議会毎に範囲を分けて議論していることは重々承知であるが、分割されているがゆえに、誰も声を上げていないのではないかと危惧している。

◆ [部会長]

事業着手について府内部で決められており、果たして本当に妥当なものか検証の仕組みがないと認識しており、共通した問題点と認識している。審議会として今後どうするか引き続き議論したいと事務局には強く要求する。

委員のみなさまいかがか。

- 前田委員：府民の方の目が触れるような何か場を設ける必要があると思う。
- 兒山委員：先ほどの南へ道路を通す件については議事概要にも記載されていなかったように思うので、発言内容は議事概要に載せていただければと思う。
- 北野委員：審議の論点が、恣意的な切り取り方がされていたり、事業の工区分割の結果サンクコスト的な問題になっていたりするようなことが過去あったと感じている。構造的な問題であり今後取り組むべき課題と認識している。
- 織田澤委員：北野委員の意見に同意する。本件以外も含めて過去に挙げられた議論すべき点について改めて議論していく必要を感じている。

◆ [部会長]

一定の回答を出せるよう、引き続き議論を進めていくことを前提として確認するが、本件は意見具申の個別案件として記載する内容ではないと調整させていただく。

兒山委員からご指摘があった議事録の件について、緑の件や道路を延長する件について横山委員がご発言された記憶はあるか。

- 横山委員：森の中が買収しやすく、まちづくりがうまくいけば実施するというという説明だったかと思うが、本当に発展させるべきなのかと感じたため、まちづくりにも色々なパターンがあるので整理する必要があると発言した記憶がある。

◆ [部会長]

事務局としてはどうか。

◆ [事務局]

議事概要を作成する際は、文字起こしから作成するので、文字起こしを確認させていただく。

- 横山委員：議事録に残る残らないの議論ではなく、考えをきっちり伝えることが大事だと感じており、意見を言うだけでいつも改善されない点があるのではないかとということを危惧している。

◆ [部会長]

議事録は議事録として、その場で行われた議論を適切に記録するという役割があるので、その時にあった発言はそこで書くべきであるということで確認を取らせていただいた。委員のご意見は本日の議事録にきっちりと記載するということになるかと考えている。

- 兒山委員：過去に発言していないから意味がないという意図ではなく、漏れていることがあれば記録すべきだったということである。本日のやりとりを今回の議事録に残していただくのが適切だと考える。

◆ [部会長]

事実を記録することは当然の話かと思う。これを活かして次のステップへどう行くかということは、申し訳ないが次回送りになるかと思う。昨年度も宿題があり、一度別の機会を設けていただいたが、今回、さらに具体性のあるご意見も色々出てきているため、これらをトータルとしてどうしていくのかということについての、何かしらの方向性を、会議の終わりに事務局よりお示ししたい。

付帯意見について、既に意見を付すと審議会で決めた都市計画道路八尾富田林線（八尾藤井寺工区）街路事業について事務局より意見具申（案）の説明をお願いする。

◆ [事務局]

これまでの委員の意見を踏まえ、事務局で参考にしたたたき台を作成しているので読み上げる。

審議対象事業のうち1件の事業について、特に今後の事業実施に留意すべき事項として意見を付した。

【⑦都市計画道路八尾富田林線(八尾藤井寺工区)街路事業】

〔審議結果と付帯意見〕

当該事業の整備対象は、大和川以南から大阪府中部広域防災拠点及び大阪府広域医療搬送拠点への重要なアクセス道路として災害時に迅速かつ的確な対応が可能となること、また広域的な幹線道路ネットワークが形成され、並走する大阪中央環状線や国道170号

など周辺道路の交通負荷の軽減、渋滞の緩和に寄与すること、さらに費用便益比は 1.36 であることから、対応方針（原案）どおり「事業継続」とすることに異論はない。

ただし、事業進捗状況について説明を受け、府の取組状況や進捗見込みについて理解したものの、これまでの進捗具合を勘案すると、完成年次が想定より遅れるのではないかという懸念を抱いている。ついては、今後の事業進捗管理について、適宜工程の見直しを図る等、事業の効果が早期に発現するよう、留意されたい。

◆ [部会長]

委員よりご意見ご質問および修正提案等はないか。

- 前田委員：うまくまとめていると思うが、懸念されている工期が遅れた場合、“工程の見直しを図ることで早期に効果が発現できるよう”とは具体的に何か分からない印象をうけた。
- 兒山委員：B/C が 1.36 であるということが良いという印象を受ける文章である。効果発現時期が遅れると B/C の値は厳しいものにはなるが、八尾空港の防災拠点能力や八尾南駅のまちづくり等の定性的評価を加味することで事業評価を得られるという認識であるため、B/C が 1.36 であるといことが目立っていると感じる。
- 北野委員：全体的な内容については、概ねこの内容になると思うが、“ただし”以降について、具体的な危機感を示すのが良いか迷うところである。
- 織田澤委員：同じく後半部分について、例えば、強い懸念である、遅れるということが何を意味しているのか、少し書き込む必要があるのではと、感じている。
- 横山委員：まず 1 点目として、B/C の結果が 1 未満の場合、事業を行わない事はないと考えると、B/C の結果より事業の定性的意義を丁寧に示すことが大事と感じる。もう 1 点は、難しい話なのかもしれないが、所謂行政的な曖昧な言い回しではなく、正々堂々と結論を示して欲しいと考える。

また、今後、B/C の数値で事業の必要性を図るべきかどうかについてもきっちり議論しておくべきかと考える。

◆ [部会長]

まず 2 段落目について、委員指摘のとおり内容が分かりづらくなっているため“適宜工程の見直しを図る等”を削除し、“事業の効果が早期に発現するよう、留意されたい”とする方が、審議会としての意見を真っ直ぐ表現できると考える。事業が遅れることに懸念を抱いており、早期に事業効果が発現されるよう事業を進めてほしいとする趣旨が明確になると考える。

もう 1 点は、B/C が 1.36 であることをどのように位置づけをしている文章にするかになる。原案は、事業意義を重要なものから列举しており、定性的な意義があるうえで、補足的な意味で費用便益比も 1.36 であると表現する意図であったが、委員指摘のとおり“さらに”が強調しているように読み取ることができるため、“また”と修正する方が若干数値

の強調が緩和されるかと思うが、いかがか。

○前田委員：修正内容に異論はない。

○兒山委員：費用便益比の位置づけは”さらに”より”また”の方が、良いかもしれない。

○北野委員：修正内容に異論はない。

○織田澤委員：修正内容の意図には同意する。費用便益比の前文が“また”で始まっているため、接頭語を無くして問題ないを考える。

◆ [部会長]

委員の方々の指摘をまとめると、前文の“また”を削除し、費用便益比の接頭語を“また”にすることで、定性的意義を全て同列として重要なものであることを示し、費用便益比は付け足しであるといった表現にすることがより適当であると考えているが、いかがか。

○織田澤委員：異議なし。

○横山委員：事業評価の根幹の話になるが、こういった案件について、費用便益比を事業実施の判断基準とすべきなのかが疑問である。例えば費用便益比が小さい値を示しても、事業を実施すべき案件はあると考える。その結論がないまま、議論を進めていいものか困惑している。丁寧な議論を進めているが、前提となる確固たるルールがないのではないかと、そこを先に決めるべきと考える。

◆ [部会長]

委員指摘について、あくまでも個人的には事業便益比は事業の採否に用いるような信頼度の高い数字ではないと思っている。しかしながら、同種の事業が複数ある中、優先順位を定める上では、事業便益比の高いものから順次始めることは一つの基準として意義があると考えている。そのため、費用便益比が1を上回るから良いのではなく、他の事業と比較して、定性的意義もあり、費用便益比も悪くないことを確認することが、当該事業に対する評価を確認することであり、費用便益比についてはやはり触れるべきであると考えている。行政事業として一定のマニュアルのもとに進めなければ、判断基準がその都度変化してしまい、かえって問題になるため、現時点でできる表現の仕方議論している状況である。費用便益分析については、今後の検討事項の一つとしていただくこととする。

審議案件8件に対する意見具申として、また付帯意見として原案の1件について異論はないか。

○委員：異論なし。

◆ [部会長]

細かい修正は、事務局と私に一任していただくこととする。

以上で、意見具申の審議を終了する。

(3) その他

◆ [事務局]

今年度4回の議論をしていただき、本日以外にも色々なご指摘をうけていたかと思う。

改めて整理させていただきたい。

◆ [部会長]

大きな話の一つとして、審議会の中で、ひと繋ぎの都市計画道路事業に対し、工区毎の事業評価として個別評価を実施していくことが正しいかというところがある。本来都市計画審議会で議論すべき内容ではあるが、そこで議論されなかったことを、事業評価審議会としてどこまで代替してやっていくのかというのは大きな話である。

工区の区切り方によって、B/Cの発現の仕方は当然異なってくる。当初の値が厳しい数値のところからスタートして、ある程度目途がついたときに、ここまできたからやってしまうというような策を弄してやっていくというのが、これまでの過去の良い行政マンだったかもしれないが、これから先、先細りの人口構成、財源の中で将来負担をいかに減らしていくのかという考え方になったときに、これまでのやり方では通用しない。これについては、人によって考え方が全く異なり、発散し、結論づけるのが非常に見通しづらいため、これらを議論する場を設けることが可能とは思っていない。ただ、こういう意見を受けて、いかにマイナーチェンジをしていくかというのが、最終的なおとしどころかと考える。

今の在り方に対して、色々なところに問題点が生じていることについては、我々のように断片的に関わっている学識よりは、むしろ実務で携われているの方が、内面で課題に感じておられるかもしれないとも推察する。ついては、内部でもしっかり腹を割った議論をしていただき、物事の決定や整理に外部の意見が必要であればお声かけいただければと思う。

○横山委員：事務局は今までの議論をすぐに提示できないのは真摯に受け止めていないと感じる。我々専門家が時間を使い議論している。

◆ [部会長]

行政として、先送りの仕方としてあのような答え方もあるかと思う。来年度は、WEBだけではなく、お互いの人柄や発言の裏の気持ちもわかるような、対面での議論もできればと思う。

◆事務局挨拶

色々のご意見いただき感謝。部会長の仰るように、今後は対面で意思疎通できる場を設けていきたい。委員の皆様方にいただいた様々なご意見を受け止め、我々の方で改善できる点について、これから事業を進めていく中で、議会や住民を含めて、何が最適かを整理して部会長を通じてご相談させていただきたい。

部会長におかれましては、進行、取りまとめをいただき感謝申し上げます。

今年度退任の委員3名の方におかれては、4年という任期を務めていただき感謝申しあげます。また、その他の委員におかれても、引き続きご継続いただけるとのことで、何卒宜しく願い申し上げます。審議の過程でいただいたご意見は貴重だと考え、今後少しでも府民に信

頼られるような事業の進め方として、あり方について改善していきたいと考えるので、よろしく願いもうしあげる。

◆退任委員挨拶

○北野委員

4年間、審議会でお世話になり私自身も非常に勉強になり感謝申し上げます。

日々感じていることとしては、同種事案と比較し、ガイドラインに基づき数値化して考えることは非常に意味のあることで良い面もある一方で、ガイドラインに基づく費用便益分析で考えることが独り歩きして、制度にも弊害が出ている状況になっていると考えるところである。また、費用便益分析の数値が便宜的に強調されていることもあり、事案によっては1を切ってもやるようなこともあるので、総合的にどのような判断をしていくべきか、本来考えていかなければならないところで、場当たりの判断になっていないかということは、本日の議論で自身も反省したところ。

全国のガイドラインに基づいてやるだけでなく、日本を代表する都市・大阪として、全国をリードできるような大阪モデルをつくるという議論もあったかと思うので、終わる立場で今後の委員のみなさまにご負担を課すようで申し訳ないが、よりよい審議の在り方を検討いただければと思う。4年間ありがとうございました。

○前田委員

こちらの会議では、集められた税金をどのように使うのかという視点で議論するものであったので、とても新鮮であったと同時に、血税という言葉をすごく重く感じた場でもあった。それらを判断しなければならないというのは、プレッシャーでもあり貴重な経験をさせていただいた。ありがとうございました。

○小谷委員(事務局代読)

毎回充実した議論をさせていただき、審議会及び都市整備部会ともに丁寧にご準備いただき感謝。議論の中では費用便益分析に現れる部分だけではなく、より定性的な効果も踏まえた丁寧な説明をしていくことについて委員の皆様の関心が高まったかと思う。このように審議会が充実していくことは府民の大きな利益となり、府の発展に寄与するものだと思うので、引き続きご尽力いただければと思う。4年間ありがとうございました。

◆部会長挨拶

本来のあるべき姿と、今の行政の在り方、あるいは民主政治のありかた等、色々な軋みが生じて、このギャップをどのように埋めていくのかというのは抜本的な改善が難しいと感じている。ただ、そうは言いながらも前に進まなければ、物事は変わらないので、また、年度が替われば、新たなメンバーで繰り返しの議論になることもあるが、一歩でも前に進める

ような方向で、個別案件の話だけではなく、昨年度実施したような、あるべき論について1、2回でも議論できる場を設けていただけるように、事務局には工夫をしていただけるとありがたいと考える。

委員の皆様には、色々お忙しい中、なおかつ限られた時間の中で結論を得なければならぬので、私が強引な議事進行をしたことについてお詫び申し上げます。

限られた時間ではあったが、多様な視点からご意見いただいて私自身学ばせていただいたことにお礼を申し上げて本年度最後の言葉とさせていただく。どうもありがとうございます。

以上